

刈谷市スポーツマスタープラン実施状況調査結果一覧

平成 3 0 年度末

1 活動プログラムの充実

	評価指標											
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値(H30)
成人スポーツ実施率(週1回以上)	26.0%	—	38.9%	—	39.5%	—	39.1%	—	44.6%	—	38.8%	50.0%
各種大会、イベント参加者数	16,227人	16,780人	16,459人	14,974人	23,500人	24,159人	26,701人	27,158人	27,948人	27,635人	24,204人	26,000人
全国大会等への出場者数	704人	707人	672人	644人	667人	646人	699人	836人	751人	453人	494人	1,000人

※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・新規・廃止の6項目

No.	事業名	30年度事業内容	…評価指標に関わる人数		評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
			H30	H29			
1	幼児期から体力向上への支援(指導者派遣事業)	総合運動公園指定管理者と連携し、希望があった幼稚園・保育園に対し、「なわとび」、「鉄棒・跳び箱」や「こどもへの指導方法(走り方、なわとび、マット運動)」などの出張指導を実施した(※講師料は園負担、8園・計10回)			継続	引き続き、指定管理者と連携し、希望する園に対し運動実技の出張指導を実施する。効果・効率的な派遣方法等を検討する。	スポーツ課
2	各種大会出場選手激励事業	国際大会・全国大会に出場する選手に対し、激励金を交付した。交付額:3,294,000円	494人	453人	拡大	制度を知らない市民らがいると考えられることから、制度の周知方法の検討を行う。	市民協働課
3	ホームタウンパートナー事業	各チームの担当者及び愛知学院大学内藤講師と連絡会を3回開催し、連携の強化等を図った。リーフレットやうちわ、横断幕等の作成や活用、市民だよりやHPでの広報、WA刈谷やオアシス館、刈谷駅前観光案内所や刈谷駅南北連絡通路、刈谷わんさか祭り2018等での広報啓発活動によりチームの周知を図った。刈谷キラキラ教室の開催(2回)及び観戦機会の提供(4試合のべ346名)を行った。				東京2020オリンピック・パラリンピックを始めとする国際大会によるスポーツの機運が高まっていることに乗じて、チームとのさらなる関係強化に取り組み、刈谷キラキラ教室を始め、トップアスリート、チーム関係者を学校へ派遣する新たな方法を確立し、スポーツ振興に努める。また、刈谷市ホームタウンパートナーに数多く在籍する日本代表選手を筆頭に、選手にスポットをあて、特集記事を組み、魅力あふれる広報を展開する。令和2年度は、市制70周年記念大会事業を実施予定(親子無料観戦招待、記念グッズの作成等)。	
4	国際スポーツ大会等招致事業	誘致推進委員会の開催(1回) 日本代表トレーニングキャンプの受入れ(H30.12.15~17) 競技団体等への訪問等による招致に関する調査、PR等の実施 東京2020オリンピックへの事前キャンプ国誘致に係る目標国の競技団体関係者の視察受入				東京2020オリンピック事前キャンプ、東京2020オリンピック聖火リレー等、オリンピック関連イベントを実施する。	
5	国際交流振興事業	愛知万博フレンドシップ相手国であるカナダとの交流を進めるため、カナダの市民スポーツであるストリートホッケー体験交流会を東海日本カナダ協会の協力のもとミササガパーク内で11月11日(日)に開催し、約150人が参加した。カナダでストリートホッケーの普及活動を行っている方を招いて、市内中学校、高校に訪問し、ストリートホッケーの体験交流を実施した。	150人	70人	継続	愛知万博フレンドシップ相手国であるカナダとの交流を進めるため、カナダの市民スポーツであるストリートホッケー体験交流会を東海日本カナダ協会の協力のもとミササガパーク内で11月10日(日)に開催し、約90人が参加した。運営方法が精査されておらず、円滑な実施に至っていないため、参加者目線で実施できる方法を検討する。	福祉総務課
6	スポーツ等奨励事業	スポーツの国際大会や全国大会等に出場する障害者に激励金を交付し、障害者スポーツの振興を図った。12人(全国大会11人、国際大会1人)。 <参考:過去実績> 平成27年度 16人(全国大会5人、国際大会11人) 平成28年度 16人(全国大会12人、国際大会4人) 平成29年度 18人(全国大会14人、国際大会4人)	12人	18人		スポーツの国際大会や全国大会等に出場する障害者に激励金を交付し、障害者スポーツの振興を図る。 スポーツ振興を目的とし、スポーツの国際大会や全国大会等に出場する障害者へ激励金を交付しています。また、大会の種類も多様化しており、大会参加者の把握が今後重要となると考えられますので、関係機関と連絡調整を行い大会参加者を把握していくよう努めます。	
7	スポーツ・レクリエーション事業委託(心身障害者福祉館管理運営事業)	心身障害者福祉会館において、スポーツ・レクリエーション講座(3B体操・機能訓練)を開催した。3B体操 延べ321人、機能訓練 延べ210人。	541人	603人		心身障害者福祉会館において、スポーツ・レクリエーション講座(3B体操・機能訓練)を開催する。参加者のニーズを把握し、より多くの障害者が参加できる講座を開催していくよう努めます。	
8	高齢者団体等助成事業	高齢者の自主的な健康づくりと生きがいづくり、仲間づくりの推進を目的に、刈谷市いきいきクラブ連合会活動の一環として、春と秋に歩け歩け大会を実施している。 春 H30.5.18 場所:岩ヶ池公園周辺 883人 秋 H30.10.31 場所:刈谷青果市場周辺 764人	1,647人	1,735人	継続	春と秋に歩け歩け大会を継続して開催していく。 今後、益々増加していく高齢者に対して、クラブへの加入奨励などを積極的に行うとともに、クラブ活動を通じて自らの健康管理やスポーツ施設利用への意欲を促し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。	長寿課
9	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	高齢者の自主的な健康づくりと生きがいづくり、仲間づくりの推進を目的に、刈谷市いきいきクラブ連合会への委託事業としてゲートボール大会及びグラウンドゴルフ大会を実施している。 ゲートボール大会 H30.5.31 場所:総合運動公園自由広場 42人 グラウンドゴルフ大会 H30.9.28 場所:総合運動公園自由広場、芝生広場 373人	415人	422人		今後、益々増加していく高齢者に対して、クラブへの加入奨励などを積極的に行うとともに、クラブ活動を通じて自らの健康管理やスポーツ施設利用への意欲を促し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。	
10	高齢者交流プラザ管理運営事業	内容:高齢者の介護予防と生きがいづくりを目的に、高齢者交流プラザの事業の一環として高齢者福祉センターで実施(2講座)している。 ○ゆっくりとした健康運動法「意身功」を学ぶ。月曜日(月約2回~3回) 前期:H30.4.9~9.3、後期:H30.10.15~H31.3.4 ○ボールなどを使い、音楽に合わせて身体を動かす。金曜日(月2回~3回) 前期:H30.4.6~9.21、後期:H30.10.5~H31.3.8	1,076人	1,115人		今後、益々増加していく高齢者に対して、各施設で実施している事業紹介などを積極的に行うことで、自らの健康管理や施設利用へと結び付けるとともに、事業内容や施設設備などの充実を図り、高齢者の生きがいと健康づくりを支援していく必要がある。	
11	筋力向上トレーニング事業(旧:運動機能向上機能)	要支援1・2と認定された者又は基本チェックリストにより運動器の機能低下が認められ、介護ケアマネジメントの結果、事業への参加が必要とされる場合に、運動機能の向上と介護予防を目的とした運動を行う。1期(クール)22回で、市内7か所の事業所(老健・デイサービス)への委託事業である。 第1期 H30年5月~7月 31人、第2期 H30年9月~11月 25人、第3期 H31年1月~3月 29人	85人	106人	介護予防・生活支援サービス事業の通所型サービス(短期集中サービス)に位置づけし、事業を継続するとともに、介護予防把握事業の結果を地域包括支援センターと共有し事業と結びつける。		

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
12	いきいきプラザ管理運営事業	高齢者の機能訓練とリハビリの拠点として位置付けられた、一ツ木福祉センターのいきいきプラザの事業の一環として、運動機器や機能訓練プールなどを使用した運動を実施している。その他講座は以下のとおり。 ○いきいき元気講座(前期H30.5.12~8.3)12回 ○いきいきヨガ講座(前期H30.5.8~8.21)15回 ○プール教室(毎週木曜日) ○にこにこ教室(毎週火曜日) ○のびーる教室(毎週水曜日) ※30年度、大規模な修繕を実施の為、プール、トレーニング室、閉鎖期間あり、また後期講座は開講せず。	32,727人	40,820人		高齢者の機能訓練とリハビリの拠点として位置付けられた、一ツ木福祉センターのいきいきプラザの事業の一環として、運動機器や機能訓練プールなどを使用した運動を実施している。その他講座は以下のとおり。 ○介護予防・シニア筋トレ講座(前期)12回、介護予防・シニア元気講座(後期)15回 ○いきいきヨガ講座(前期)15回、いきいき太極拳講座(後期)15回 ○プール教室(月2回、第2、第4木曜日) ○のびーる教室(毎週水曜日) ○にこにこ教室(毎週火曜日) 今後、益々増加していく高齢者に対して、施設で実施している事業紹介などを積極的に行うことで、自らの健康管理や施設利用へと結び付けるとともに、事業内容・施設設備などの充実を図り、高齢者の生きがいと健康づくりを支援していく必要がある。	長寿課
13	ぬくもりプラザ管理運営事業	高齢者の健康増進と生きがいづくりを目的に、ぬくもりプラザの事業の一環として実施(2講座)している。 ○健康体操 隔週火曜日 前期:H30.4.3~8.21、全12回、後期:H30.10.2~H31.3.5、全12回 ○元気アップ運動 隔週火曜日 前期:H30.4.24~9.25、全10回、後期:H30.10.9~H31.3.12、全10回	902人	1,006人		今後、益々増加していく高齢者に対して、各施設で実施している事業紹介などを積極的に行うことで、自らの健康管理や施設利用へと結び付けるとともに、事業内容や施設設備などの充実を図り、高齢者の生きがいと健康づくりを支援していく必要がある。	
14	高齢者スポーツ等奨励事業	第31回全国健康福祉祭とやま大会(ねんりんピック富山2018)に愛知県代表として出場する選手に対し、激励金を交付した。 種目:ウォークラリー、健康マーじゃん	7人	7人		全国福祉祭等の高齢者スポーツ大会の全国大会に出場する選手に対し、激励金を交付する。高齢者のスポーツへの参加を促す動機付けとして大きな役割を果たすことから、事業を継続する。	
15	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	高齢者の自主的な健康づくりと生きがいづくり、仲間づくりの推進を目的に、刈谷市いきいきクラブ連合会への委託事業として健康度評価チェック事業を実施している。 場 所:あい健康の森 実施日:H30.11.13(中部地区いきいきクラブ) 29人 H30.11.14(北部地区いきいきクラブ) 17人 H30.11.27(南部地区いきいきクラブ) 26人	72人	94人	継続	健康度評価チェック事業を継続して実施していく。クラブ活動を通じて自らの健康管理やスポーツ・健康関連施設利用への意欲を促し、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。	
16	地域リハビリテーション活動支援事業	地域における介護予防の取組を機能強化するため、住民主体で運営する通いの場やいきいきクラブにリハビリテーション専門職等を派遣し、運動指導等を行う。20団体。	353人	174人		元気な高齢者を増やすために介護予防の取り組みが重要であるが、特に地域において自主的に実施することを目指している。そのため、地域の介護予防活動を支援する体制づくり及び積極的に活用してもらうための事業紹介を行う。	
17	市民健康講座	健康日本21かりや計画に基づいて実施。健康的な生活習慣を身につけるための正しい知識の普及啓発の場として講座を年22回開催している。運動に関して、ロコモティブシンドローム予防などの実技を計4回実施。	956人	635人		幅広い世代の人が健康づくりに関心を持てるよう、また日々の生活に生かせるように、栄養、運動、休養や各疾患など様々な内容を計画し実施予定。 市民ニーズの多様化により、タイトルや啓発方法の工夫や、複数回参加者への特典などにより、参加者の関心を高め、参加者数の増加を図る必要がある。 最新の健康情報や市民のニーズを把握し、よりよい内容を検討する必要がある。	健康推進課
18	特定保健指導	特定健診を受けた40~75歳の人で、特定保健指導が必要と判定された人のうち希望者に栄養指導、運動指導等を行い、生活習慣改善の支援をしている。 また、トレーニング機器を利用して、運動のきっかけづくりや定着を図ることができる施設であるげんきプラザの利用を勧奨している。	93人	102人		健康づくりにおける運動分野は栄養分野とともに健康の保持増進を図る上で両輪の役割を担うものであり、非常に重要な分野である。急速な高齢化に向けて医療費抑制を目指すためにも、より多くの対象者に参加してもらえよう今後もより一層充実・拡大が求められる事業であると考えている。げんきプラザの利用もさらに勧めていきたい。	
19	健康づくり推進員養成講座	健康づくりを地域で推進するリーダー(保健推進員・食と健康づくりの会会員)を養成するための講座年5回(食生活見直しコースは6回)のうち1回、運動やウォーキングの基本等についての内容を実施。	64人	55人		健康づくりにおける運動分野は栄養分野とともに健康の保持増進を図る上で両輪の役割を担うものであり、非常に重要な分野である。急速な高齢化に向けて医療費抑制を目指すためにも、参加機会の拡大、きっかけづくり、リーダーの養成等、今後もより一層充実・拡大が求められる事業であると考えている。	
20	保健推進員による健康づくり事業	刈谷市保健推進員連絡協議会に健康づくり事業を委託。保健推進員は地区活動として各地域で健康づくり事業(栄養教室、運動教室、歩け歩け運動)を開催している。 保健推進員数(実人数)196人 地区活動参加者数(延人数)4,216人	4,412人	205人		健康づくりにおける運動分野は栄養分野とともに健康の保持増進を図る上で両輪の役割を担うものであり、非常に重要な分野である。取り組みやすい運動の普及啓発の強化に加え、身近な地域での健康づくりにつながる運動機会の提供やきっかけづくりは、今後もより一層充実・拡大が求められる事業であると考えている。	
21	かりやヘルスアップ大学	自己の健康を見直し、健康的な生活習慣について学ぶと同時に、地域の健康づくりに貢献できる人を育成するための「健康大学」かりやヘルスアップ大学を開催している。大学の開学期間は1年間で21回の講座を開催(うち3回を公開講座として一般公開)。50~60歳代が対象で、男17人、女性14人の合わせて31人参加。	73人	36人		至学館大学と連携し、健康づくりにおける専門的知識の提供を行い、また実技を通して適切な運動方法や身体ケアの方法を学ぶことで、運動習慣等を身につけるきっかけの場となっている。卒業後の地域での活躍、社会貢献等について更に検討を深める必要がある。	
22	げんき応援事業 げんき度測定・個別支援教室	【げんき度測定】生活習慣の問診や、身体測定、体力測定を行う。結果表をもとに自分の健康状態・生活習慣・体力の状況を知り、問題点・改善点を把握したうえで、自ら健康づくりに取り組めるよう働きかけている。週3日開催。託児(カンガルールーム)付きの測定を4回実施。865人(実人数)。 【個別支援教室】一人ひとりの健康状態に応じ、専門スタッフによる適切なアドバイスを受けながら、トレーニング機器を利用した運動の実践や、必要に応じ、医師・管理栄養士等の面談や講話を受け、運動の定着を促すための教室を開催している。35,042人(延人数)。 【情報発信】市民や、企業など働く世代に向けた情報提供を行う。	35,907人	37,333人	継続	げんき度測定の新規受検者数を増加させるため、勧奨方法を検討し、より多くの市民に利用してもらう。安心・安全に利用できる施設として運営できるよう、委託先である愛知県健康づくり振興事業団との連携を強化する。 他の公共運動施設との情報交換を行い、連携を強化し、運動習慣定着者が運動方法や運動施設を選択して、運動を継続できるような体制づくりに向け、検討していく。 より近くに運動の場を確保するため、運動施設の増設を検討していく。	

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
23	げんき応援事業 集団運動教室	運動不足の人に、楽しく体を動かし、家庭に帰ってからの運動習慣の定着化を図る場として開催。 ・たのしく筋トレ・・・家庭でできる筋力アップ運動を体験する。8回コース、1年3クール開催。 ・かんたんエアロ・・・音楽に合わせて楽しくからだを動かす、基本ステップを学ぶ。8回コース、1年2クール開催。 ・運動ではじめ教室・・・運動習慣がない方向けのレクリエーションを中心した運動を体験する。6回コース、1年2クール開催。 ・癒しヨガ・・・心身のリフレッシュのため、レクリエーションを楽しみながら体を動かす楽しさを知ってもらう。5回コース、1年2クール開催。	1,308人	1,317人		運動不足の人に、楽しく体を動かし、家庭に帰ってからの運動習慣の定着化を図る場として開催。《たのしく筋トレ》8回コース、1年3クール開催。《かんたんエアロ》8回コース、1年2クール開催。《運動ではじめ教室》6回コース、1年1クール開催。《癒しヨガ》5回コース、1年2クール開催。教室により応募人数にばらつきがあること、男女差や年齢層も幅広いため、勧奨方法、教室の内容等検討していく。また、教室参加者に教室終了後も運動の継続につながるような意識付けをしていくことが課題である。今後も、安心・安全に利用できる施設として運営できるよう、委託先である愛知県健康づくり振興事業団との連携を強化していく。	健康推進課
24	健康いちばん教室・高齢者サロンへの保健師等派遣	介護予防の一次予防事業として、閉じこもり予防や転倒予防のため、いきいきクラブや地域の協力を得て、運動教室を開催。その後いきいきクラブ主体の自主教室へと移行し、現在8地区9か所で開催している。教室が継続できるよう、支援を希望する地域に対し、保健師が援助している。	561人	1,166人		年間、1団体につき保健師派遣回数を2回として、健康いちばん教室8地区9か所、高齢者サロンへ4か所に派遣している。介護予防の観点に基づき、元気な高齢者を増やすために、自分の現状を確認し、健康を維持増進できるような事業が求められていると考える。地域での取り組み状況を確認し必要に応じていきいきクラブ等団体にも働きかけ、地域の活動を支援を実施していく。	
25	子ども会活動育成支援事業	刈谷市子ども会育成連絡協議会、刈谷市相撲連盟、アイシン精機株式会社と連携し、第47回刈谷市子ども会すもう大会を開催し、企業と子どもによる交流の場を設ける支援をした。11月3日開催。	100人	100人		刈谷市子ども会育成連絡協議会、刈谷市相撲連盟、アイシン精機株式会社と連携し、第48回刈谷市子ども会すもう大会を開催し、企業と子どもによる交流の場を設ける支援をした。11月2日開催、約90人。少子化、スポーツ参加の場の多様化により子ども会の参加者が減少している。	子育て推進課
26	子ども会活動育成支援事業	刈谷市子ども会育成連絡協議会と連携し、子ども会球技大会(ドッジボール)、子ども会すもう大会において、子どもたちのスポーツ参加の機会を提供し、子どもたちの体力向上に役立てた。子ども会球技大会6月17日開催、子ども会すもう大会11月3日開催。	590人	600人		子ども会球技大会6月23日開催、約500人、子ども会すもう大会11月2日開催、約90人。少子化、スポーツ参加の場の多様化により子ども会の参加者が減少している。	
27	子ども会活動育成支援事業	市内で活動する単位子ども会を補助することで、活発な活動を促し、より多くの交流の場が設けられるようにした。	3,016人	3,578人		少子化、スポーツ参加の場の多様化により子ども会の参加者が減少している。また、地域活動の多様化により子ども会への負担も増大している。	
28	赤ちゃん体操・ベビー体操教室	生後5か月～6か月のお子さんとその母親を対象とし、3回講座で実施。ベビー体操では講師を招き、赤ちゃん体操では職員が担当し(3回目のみ、講師を招く)、赤ちゃんのマッサージの仕方や赤ちゃんとともにできるストレッチや体操を紹介したり、その場で実践してもらったりすることで、産後運動不足の解消に役立ち、赤ちゃんを育てながら健康に過ごすことへの支援を行った。	2,180人	2,284人		出産後の母親のニーズに応え、母子の心身の健全な育成のために、今後も支援していく必要性があり、そのために講師を依頼して行う講座を主に計画・実施していく。	子育て支援課
29	スポーツ教室	市民サッカークラブであるFC刈谷運営組織である「特定非営利法人かえるスポーツクラブ」により、運動の苦手な子どもにも参加しやすいプログラムを提供していただき、園児の健全な育成に資することを目的として、公立幼稚園16園・保育園10園の5歳児を対象に年間2回、1回約1時間、40名以内で実施。委託料は1園につき100,000円。コーディネーション・バランストレーニング(鬼ごっこ、片足立ち、ストップ動作など)から無理なく楽しく子どもたちが体を動かした後で、ボールに触れミニサッカーゲームを行うなど、子どもの興味をひく様々な動きを取り入れた内容であった。	2,342人	2,632人		出産後の母親のニーズに応え、母子の心身の健全な育成のために、今後も支援していく必要性があり、そのために講師を依頼して行う講座を主に計画・実施していく。	子ども課
30	実技研修(体育)	保育の専門知識、技術を確認することを目的とし、子どもの発達に合った運動遊びの研修を実施した。それぞれの園の子どもの発達と運動遊びにおける課題を考えて講師や内容を選定し、保育士は多様な運動遊びの指導法を学ぶことができた。学んだ知識や技術を子どもと一緒に実践することで、体を動かす楽しさを体感することができた。	168人	212人		保育士は保育の専門知識、技術を確認するため子どもの発達に合った体育遊びを習得し、子どもが楽しく意欲的に運動遊びに取り組み、運動技術や体力の向上を図れるように努める。	
31	一般教材整備事業	小中学校の教材用備品として備品を購入した。小学校・・・とび箱、玉入台等、中学校・・・走高跳スタンド、マット等				小中学校の教材用備品として備品を購入する。小学校・・・マット、ファウル表示板等、中学校・・・サッカーゴール、コースロープ等	教育総務課
32	体力向上プロジェクト推進支援事業	小中学校では、各校の実態を分析し、体力向上への取組を実施する。コーディネーショントレーニングの定着を図るため、コーディネーションを取り入れた刈谷市オリジナル体操づくりを講師に依頼し、園・小・中の教諭対象に指導者講習会を実施した。	160人	1,560人		各校の体力向上の取組については、体育主任者会で実施状況を把握し、課題を解決できるようにする。コーディネーショントレーニングの幼稚園・保育園児及び中学生向け指導者講習会を実施する。全小学校にコーディネーショントレーニングの講師を1回(1時間程度)ずつ派遣し、低学年児童を対象に体づくり運動の授業を行う。	学校教育課
33	スポーツ重要性啓発事業	スポーツをすることの意義だけでなく、子どもたちの健康づくりのために、睡眠や食事、テレビやゲームの視聴時間の削減など、規則正しい生活習慣の確立をめざした指導にも力を入れてもらえるように、各種会議や学校訪問等で依頼した。「体育の授業の充実」、「生活習慣の改善」、「運動機会の設定、外遊びの奨励」を三本柱に、各学校での体力向上にむけた取り組みを一層推進する。	22人	—	継続	体力テストや運動習慣調査の結果などを使った指導をもとに、生活習慣の改善や運動機会の獲得について、自主的に行動できる子どもを育成したい。	

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課	
34	スポーツを通じた交流の促進(地域等)	各種企業やスポーツ連盟の協力を得てのスポーツ大会等の行事、福祉実践教室や祖父母参観等の学校行事において、スポーツを通して様々な人と交流できるような場を設定するように努力した。			継続	スポーツ課が開催するキラキラ教室に参加したり、一流チームの試合を観戦する機会を紹介したい。	学校教育課	
35	スポーツを通じた交流の促進(企業スポーツ)	企業スポーツの関係者から要望があれば、各学校に情報を提供し、学校行事や授業等で専門家によるスポーツ教室を実施する機会を提供できるようにしている。				授業で企業チームの選手を指導者として迎える学校が見られた。今後も増えるよう努力したい。		
36	スポーツの重要性の啓発	各学校においてはPTA行事等で、学識者やスポーツインストラクターの講演会や講習会、親子でスポーツに親しむ機会を設定し、保護者に対しても、スポーツすることの意義、健康づくりの重要性について周知されるようにさらに働きかけた。	22人	—		PTAや部活動などの活動で、親子でスポーツに親しむ機会を設定する学校も見られた。今後も、こうした活動を広めたい。		
37	総合型地域スポーツクラブへの加入促進事業	中学校区を活動単位とする総合型地域スポーツクラブが整備されている。そのため、まずクラブ構成員の子どもたちの参加を契機に、児童生徒の加入が促進されるように各校にお願いした。また、総合型地域スポーツクラブ研究会に参加し、定期的にスポーツクラブの代表者との情報交換をした。				加入数が増えている地域があるが、さらに加入を促進する努力が必要。		
38	顕彰制度の充実	全国大会などに出場するチームや選手を表敬訪問を通して、激励したり、記念式典で表彰したりして意欲の向上に努めた。			新規	各学校からの情報提供の基で表敬訪問を行っているが、クラブチームに入部している児童生徒についても情報提供していただけるように学校と連携を図っていきたい。		
39	市民講座	各センターの市民講座において、健康づくりや子どもの体力向上に関する講座を実施した。 前期:社交ダンスを楽しんでみませんか! はじめ8講座 計156人 後期:初めてのヨガ はじめ8講座 計148人	304人	236人	継続	各センターの市民講座において、健康づくりや子どもの体力向上に関する講座を実施した。市民講座・高齢者教室ともに、今後も市民ニーズに応えられるよう適切な内容を設定して、実施していく。	生涯学習課	
40	高齢者教室	全6講座のうちの1講座を至学館大学の公開講座に割り当て、健康づくりに関する講義を実施した。元気な体を作る～ストレッチ・体幹トレーニング～	24人	28人				
41	よかよかガイドの作成・配布	市が実施する生涯学習関係事業を市民に情報提供するため、生涯学習情報誌『よかよかガイド』を年間で5,300部作成し、公共施設において配布した。					市が実施する生涯学習関係事業を市民に情報提供するため、生涯学習情報誌『よかよかガイド』を年間で4,000部作成し、公共施設において配布した。今後も継続して情報誌を作成し、学習機会の提供に努める。電子化への移行を検討中。	
42	指定管理者自主事業(教室の開催)	指定管理者による教室が開催された。陸上、水泳、スタジオ(ダンス等)等	60,650人	70,580人	継続	事業の充実を図る。	スポーツ課	
43	体育協会主催事業	市民の誰もが参加できる刈谷市長杯等を各連盟主催により開催した。また、日本リーグ等をはじめとする様々な大会を連盟等の主導により開催した。	7,593人	7,127人			現在のプログラムは数、質ともに豊富ではあるが、認知が低いイベント等もあるので、より多くの参加者が得られるよう、効率的かつ効果的な啓発活動を行う。	
44	レクリエーション協会主催事業	市民の誰もが参加できるレクリエーション大会を各協会主管により開催した。	1,569人	1,771人			現在のプログラムは数、質ともに豊富ではあるが、定員に満たないイベントや教室等もあるので、より多くの参加者が得られるよう、効率的かつ効果的な啓発活動を行う。	
45	スポーツ教室開催(指定管理者指定)事業	平成29年度に総合運動公園園体育施設の指定管理者再指定に合わせ、教室の運営主体を市から指定管理者へ移管した。スポーツ教室を指定管理者指定事業として、9教室、各年3期開催した。また、ミニテニス教室には臨時保育室(カンガルールーム)を設置し、子育て中の世代が参加しやすい環境を整えた。	822人	882人			指定管理期間内において、指定管理者による既存事業との重複や各競技団体等への実施主体の移行の可能性等を見極め、教室の継続実施や各競技団体等への実施主体の移行を検討する。	
46	各種大会開催事業	市民が日頃愛好している競技を開催した(H30.11.10刈谷GOGOウォーキング142人、H30.9.29一万人卓球大会に724人参加予定だったが、台風のため中止、H31.2.24ユニホッケー大会71人)。	213人	1,036人			刈谷GOGOウォーキング、一万人卓球大会、ユニホッケー大会の3大会を開催する。各競技団体の組織力や運営能力等も踏まえ、競技団体による自主的な大会開催への移行を促進する。また、各競技団体による自主運営が可能となるよう、競技団体の育成に努める。	
47	ニュースポーツ普及事業	誰もが気軽に楽しめるニュースポーツを普及し、スポーツへの関心を持つきっかけと環境づくりを推進するため、スポーツふれあいdayを年12回、ノルディック・ウォークステーションを年12回開催した。	706人	770人			スポーツふれあいdayの開催(支部開催及び全体会)種目…ノルディック・ウォーク、ミニテニス、ソフトバレーボールを始め、ニュースポーツの新種目であるファミリーバドミントン、ポッチャ、インディアカを随時、開催する予定。ノルディック・ウォークステーションの開催…毎月1回(第4日曜日)昨年度よりも各小学校開催での参加人数が格段に増えたため、会場の広さ、運営人数など、許容範囲を超えており、安全面に課題がある。今年度、新たに購入したポッチャを含め、ファミリーバドミントン、インディアカなど、ニュースポーツの新種目を随時、開催する。また、刈谷市体育館での開催時に忍者ランドや卓球など開催することで、参加人数が乳幼児を始め、多く、運営人数が不足するなど、運営方法に課題がある。	
48	各種大会補助事業	競技者の拡大と競技力向上及び競技団体の強化を図るため、本市で開催された、日本女子ソフトボールリーグをはじめとする22の大会に補助金を交付した。					日本女子ソフトボールリーグをはじめとする22の大会に補助金を交付予定。みる・ささえるスポーツを通じて、本市の更なるスポーツ振興をはかるため、事業を充実させ、全国大会や世界大会の積極的な誘致を行う。	スポーツ課
49	愛知万博メリアル市町村対抗駅伝選手派遣委託事業	刈谷市選抜の選手団18名を派遣し、市の部で第11位の成績を収めた。H30.12.1開催	20人	20人		陸上競技連盟等を中心に選手の育成と発掘に努め、結果、第16位(R1.12.7開催)。世代ごとの選手選考及び発掘が課題である。		
50	かきつばたマラソン大会開催事業	参加者の安全面に考慮してコースの一部変更を行い、1.5、3、10km、ジョギング男女別、年齢別の9部門で開催した。また、今回大会は本市ホームタウンパートナーチームであるシーホース三河との協力により参加賞としてコラボTシャツ等を作成した。H31.2.10開催	2,086人	2,178人		1.5、3、10km、ジョギング男女別、年齢別の9部門でR2.2.9に開催予定。また、本市ホームタウンパートナーチームとの協力を予定している。より安全で多くの市民ランナーに参加してもらうため、コースの選定やイベント内容及び運営体制の検討が必要である。		

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
51	体力測定事業	国の体育・スポーツ活動の行政上の基礎資料とするため、スポーツ推進委員の協力により体力測定を開催した。H30.7.21	66人	48人	継続	調査時に、国及び県が要望する男性、女性の標本数を満たし、隔年で報告する必要があるため、対象となる各年齢層の市民にまんべんなく参加してもらう必要がある。	スポーツ課
52	体育協会による功労者表彰や総合式典での表彰	各種団体からの推薦書を元に、表彰基準を満たしている場合は、体育協会による審査を行い、認められる場合は功労者表彰等を行う。その他に、本市の基準を満たす選手や団体については、総合式典での特別表彰等に推薦する。				必要に応じ、適宜基準等の見直しを行う。	
53	宝くじスポーツフェアドリーム・サッカー開催事業	実施せず。			完了	一般財団法人自治総合センターの公募採択事業につき、平成29年度の単独事業として実施。市のスポーツ振興や活性化に有効なスポーツイベントの積極的な誘致	

1 活動プログラムの充実の総計 164,508人 182,940人

2 クラブ・団体の育成	評価指標												
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値(H30)	
スポーツクラブ加入者数	31,415人	30,603人	30,970人	29,804人	28,883人	26,817人	27,533人	26,404人	26,335人	25,794人	24,440人	32,000人	※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・新規・廃止の6項目
総合型地域スポーツクラブの認知度	—	—	—	—	—	35.6%	—	—	—	29.1%	—	70.0%	

・・・評価指標に関わる人数

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
1	総合型地域スポーツクラブ関連情報の市民だより掲載	市民だより4/15号に、約2/3ページ紙面を確保して、市内全ての総合型地域スポーツクラブの活動内容の紹介を行った。			継続	毎年継続的に実施していることなので、マンネリ化を招く恐れがあり、新たな切り口でPRすることが必要である。	広報広聴課
2	総合型地域スポーツクラブの普及啓発活動	市民だよりに年1回(4/15号)、約2/3ページの紙面を確保し、市内6つの総合型地域スポーツクラブの活動内容やプログラムを紹介した。				引き続き、市民だよりに総合型地域スポーツクラブに関する記事を掲載する。また、6クラブ中、朝日総合スポーツクラブが初めて創立15周年を迎えることか10月に式典、催し物を開催する。併せて、市HPを更新し、6クラブの代表者に直通する電話番号を掲載し、会員加入の促進を計る。効果的な紙面づくりとPR方法の検討を行うとともに、記事の内容を精査する。また、北名古屋市が発行しているフルカラーの総合型地域スポーツクラブに特化した広報誌をモデルに、復活予算を要求したが、ゼロ査定であったため、それに代わる広報誌を行政として、新たに作成を試みる。	
3	総合型地域スポーツクラブ育成事業	総合型地域スポーツクラブ研究会を年6回開催し、会員の確保や安定的な財源の確保、クラブの魅力向上などに向け、情報の共有や意見交換などを行った。また、研究会での協議を基に、自主財源により、継続してクラブを運営できるよう県の総合型地域スポーツクラブアドバイザーを講師に招いた講習会や6クラブの共通種目であるバドミントンと卓球の交流会を開催した。なお、クラブに対する運営補助は、29年度をもって完了した。	2,198人	2,208人	継続	総合型地域スポーツクラブ研究会の開催(年6回)。会員の確保、活動拠点の確保、安定的な財源の確保、運営スタッフの充実、組織力の強化等、各クラブの自立及び経営の安定化に向けた新たな支援策の検討。	
4	刈谷市レクリエーション協会補助事業	刈谷市レクリエーション協会に対し補助金を交付し、協会および加盟団体による大会およびイベント等の開催を支援した。	857人	846人		市内のスポーツ・レクリエーションの更なる普及・振興を図るため、協会所属団体が主体性を持って継続的、組織的に活動できる仕組みと次世代を担うレクリエーションリーダーの養成は必要である。	
5	刈谷市体育協会補助事業	刈谷市体育協会に対し補助金を交付し、協会および加盟団体等による大会およびイベント等の開催を支援した。加盟人数は体協11,775人、スポ少681人。	12,456人	12,672人		本市における体育・スポーツ団体の中心的な組織として、継続した活動を行うため、安定した財源確保に努めていく必要がある。	

2 クラブ・団体の育成の総計 15,511人 15,726人

3 施設の整備・充実・開放	評価指標											
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値(H30)
スポーツ施設の利用に満足している人の割合	—	—	—	—	—	66.6%	—	—	—	74.2%	—	70.0%
スポーツ施設の利用者数	412,099人	374,390人	410,311人	439,130人	439,085人	488,370人	494,933人	501,900人	504,695人	536,336人	513,652人	450,000人

※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・新規・廃止の6項目

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
1	学校スポーツ開放事業	各小中学校開放運営委員会及び管理指導員による施設開放の実施や学校開放施設の修繕、競技用備品の購入を実施した。利用件数 9,251件、利用人数 183,048人、登録団体人数 8,928人	8,929人	10,068人		各学校の開放運営委員会事務担当者の負担軽減を図るため、予約案内システムにより受付登録できるように、システム改修を進める。	スポーツ課
2	学校スポーツ開放事業意見要望	各学校から、スポーツ開放等についての意見や要望があれば対応するようにした。また、「総合型地域スポーツクラブ研究会」において各スポーツクラブや学校の情報や意見を収集し、改善するように努力した。				施設利用において、学校との話し合いをもって進める。	学校教育課
3	交流圏、日常生活圏のスポーツ施設の充実	各学校から、スポーツ開放等を通して、学校の体育施設・設備についての意見や要望があれば対応するようにした。				各種大会を公共施設を使って行うことができている、子どもたちの励みになっている。	
4	施設管理事業	南部・北部・中央生涯学習センターにおいて、指定管理者により施設の適正な管理運営を行った。				容:生涯学習センターを広く周知することにより利用促進を図るとともに、地域住民が利用しやすい適正な管理運営を行う。	生涯学習課
5	公園管理事業	バスケットゴール及びテニスコートのネットの補修をした。				引き続き、公園施設の点検に努め、より良い施設運営を図る。	
6	総合運動公園整備工事	スポーツ人気の向上により公園利用者が増加していることから、現状の利用状況を踏まえ、駐車場の拡張をはじめとした公園区域の拡張の基礎的な検討を行った。				引き続き、公園施設の点検に努め、施設の修繕や備品の整備を行う。	公園緑地課
7	企業体育館の借用業務	内容:市内の企業体育館を借用したい団体をとりまとめ、企業側へ一括して借用申請を行うことで、市民の活動場所の確保に努めた。借用企業体育館…1箇所	185人	178人		企業との連携を密にして推進するとともに、ホームタウンパートナー制度に基づく企業チームとの連携による事業の整理が必要である。	スポーツ課
8	(仮称)逢妻川河川敷運動広場整備事業	県の総合治水対策特定河川事業に伴うスポーツ施設の整備を実施する事業であるが、県の総合治水対策特定河川事業の見直しがあり、進捗しなかった。			継続	県の総合治水対策特定河川事業の進捗次第では、施設整備に着手が可能となる予定。県の河川工事の進捗により、順次整備していくが、翌年度以降の計画は未定である。	
9	指定管理者定期連絡会議	施設の維持管理と現状について、月1回の打ち合わせ(コナミ、エリアワン、サンエイ、公園緑地課)を行うとともに、広報計画、各種事業、企画イベント等の検討を行った。				安心、安全な施設利用の提供と魅力ある事業が開催できるよう協議を重ねる。	
10	総合運動公園管理事業	指定管理者による公園と体育施設の一元的な管理運営を実施した。指定管理者によりウィンターイルミネーションとプロジェクションマッピングが実施された。				円滑な管理運営方法の検討及び公園と体育施設の一管理手法を活用した来館者等の利便性等の向上につながる新たな取組の検討。	
11	ウイングアリーナ刈谷等施設管理事業	ウイングアリーナ刈谷、ウェーブスタジアム刈谷及びグリーングラウンド刈谷の管理及び運営を指定管理者に行わせることにより効率的な管理運営を行った。また、指定管理者により自主事業のスポーツ教室等が開催された。				来年度の施設の維持管理計画を策定し、進めていく。	
12	体育館等施設管理事業	刈谷市内の体育施設(刈谷市体育館他7施設)の施設管理及び運営を指定管理者に行わせるなど効率的に行い、円滑な管理運営を行った。				指定管理範囲外の施設のより円滑な管理運営方法の検討及び体育館の施設維持老朽化対策。	
13	ウイングアリーナ刈谷等施設改修事業	ウイングアリーナ刈谷…消防設備修繕、中央操作盤更新工事他を実施した。ウェーブスタジアム刈谷…第3種公認工事、屋根支柱耐火塗装改修工事、防鳥ネット取付工事他を実施した。				ウイングアリーナ刈谷…ITV設備修繕、中央監視装置更新工事、SRノズル更新工事、ウッドデッキ改修工事他を実施予定。今後、施設の老朽化と突発的な対応と、計画的な改修が必要になる。	
14	体育館施設改修事業	港町グラウンド看板修繕、キッズルーム床改修工事を実施した。				刈谷市体育館…リモート装置更新工事、空調用ダクト等更新工事、電話交換機更新工事、住吉テニスコート…フェンス改修工事、井ヶ谷グラウンド…防球ネット設置工事を実施予定。施設の老朽化により、予期しない修繕等も考えられるため、日頃の点検を強化したうえで維持管理計画を考える必要がある。	

3 施設の整備・充実・開放の総計 9,114人 10,246人

4 指導者・リーダーの育成	評価指標											
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値(H30)
指導者名簿搭載者数	75人	—	56人	—	247人	—	191人	203人	205人	203人	193人	270人
学校部活動の外部指導者数	9人	9人	18人	19人	17人	17人	20人	25人	25人	22人	22人	20人

※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・新規・廃止の6項目

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
1	障害者団体補助金交付	障害者団体に補助金を交付し、団体が実施するスポーツ・レクリエーション事業(ボッチャ大会など)を支援した。				<補助先>刈谷市身体障害者福祉協会、刈谷手をつなぐ育成会、刈谷市肢体不自由児者父母の会	福祉総務課
2	部活動外部指導者活用事業	各学校の要望に応じて、合計22名(19名:年間200時間、3名:年間100時間)を配置した。武道の指導には特に専門的な知識と技能が求められる中、外部指導者を活用することで、レベルを上げることができた。	22人	22人		部活動顧問の教員と外部指導者が、生徒への指導について話し合い、共通理解しておくことで効果的な指導ができる。	学校教育課
3	外部指導者の知識と技術の向上	外部指導者の研修会を行い、指導者としての心構え、運動部活動のガイドラインの内容について理解を図った。				研修会ではなく、定期的に学校や外部指導者と連絡を取り合い、指導の状況を把握し、アドバイスしていきたい。	
4	優れた指導者の育成と確保	各学校から、スポーツ開放等についての意見や要望があれば対応するようにした。また、「総合型地域スポーツクラブ研究会」において各スポーツクラブや学校の情報や意見を収集し、改善するように努力した。				地域性を利用した指導者育成機会を考えていきたい。	
5	スポーツリーダー養成講座事業	市民の生涯スポーツを推進するリーダーを育成し、市民スポーツ活動の活性化と継続化を図るため、「今こそ知っておこう!～薬、サプリメントと食品の真実～」(講義)、「心の基礎の創り方～お互いを尊重することの大切さ～」(講義)、「いつでも、どこでも、だれでもできる!～コーディネーショントレーニング～」(実技)を開催した。開催日H31.2.23	41人	38人	継続	実技においては、受講者一人一人がテーピングの方法を習得できるよう指導者を整える必要がある。また、スポーツ全般の指導と個々の種目に特化した内容をバランス良く開催する必要性が高い。講義時間の確保については、時期及び会場の予約の兼ね合いがあるが、現状の半日開催から1日(午前・午後)又は、2日間に分けて開催する等、時間及び会場を確保して講座の充実を図る必要がある。	スポーツ課
6	スポーツ推進委員事業	市民のスポーツ活動の促進及び組織の育成等、スポーツの普及・振興に努めるスポーツ推進委員50名の活動を支援した。また、委員の資質向上のための研修を実施し、スポーツ推進委員だよりを作成して、スポーツ推進委員の活動をより多くの市民に知ってもらうため、地区に発信した。	50人	50人		研修への参加などによりスポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、要望に基づく推進委員の地域への派遣やスポーツ推進委員活動の住民へのPRなどの推進委員の活動支援により、地域スポーツの推進を図る。また、総合型地域スポーツクラブの運営への推進委員の参画を促進する。課題として、これまで西三河教育事務所が行ってきた西三河地区スポーツ推進委員連絡協議会の事務業務が、令和2年4月から碧南市を皮切りに移管されることになり、将来的に刈谷市にも順番が回ってくる恐れがあり、令和3年度の西三河地区実技研修会の幹事になることも含め、体制を整えておく必要がある。	

4 指導者・リーダーの育成の総計 113人 110人

5 情報の提供	評価指標											
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値(H30)
スポーツ行事の情報を知らなかったと回答した人の割合	13.5%	—	—	—	—	13.7%	—	—	—	17.2%	—	10.0%

※評価(方向性)は、拡大・継続・縮小・完了・新規・廃止の6項目

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
1	市民だより掲載及び報道各社への情報提供	刈谷市、総合型地域スポーツクラブ、体育協会、レクリエーション協会及びその加盟団体が主催するプログラムや活動内容について、市民だよりやホームページに掲載し、わかりやすく積極的に紹介した。必要に応じて新聞等に積極的に情報提供をした。				情報提供は、多くが継続的に実施していることなので、マンネリ化を招く恐れがあり、新たな切り口でPRすることが必要である。情報提供先への誤情報の発信は絶対にあってはならない。	広報広聴課
2	刈谷市拠点トップアスリートのPR	活躍するトップアスリートに関する情報をマスメディアに提供するとともに、市民だよりで「TEAM刈谷の挑戦!」と題したコーナーを設け、ホームタウンパートナーを毎月1チームずつ取り上げ注目される選手を紹介したり、ホームタウンパートナーにより催されるイベント等の記事を掲載し、市民への認知度を高めた。他にも市民だより11/15号ではジェイテクトSTINGSの選手達を、12/15号では卓球インターハイ優勝者でプロ入りした野村萌さんを紹介した。				引き続き、活躍するトップアスリートに関する情報を注視し、継続的にマスメディアに提供するとともに、好成績を残した選手や団体を市民だより等で取り上げ、市民の興味や気運を盛り上げるために市民へ紹介する。ホームタウンパートナーにより催されるイベントを積極的に情報提供するとともに、市民だより等で記事を掲載する。また、東京五輪連載特集を組み、刈谷市のトップアスリートを取り上げている。	
3	各媒体への情報提供活動	CATVのキャッチやコミュニティFMのピッチ、ホームニュース、各新聞社やNHKへ積極的に情報提供を行った。				地元密着型のマスメディアと同様に市広報職員も積極的に取材を行っている。	
4	市政情報発信手段の活用	総合型地域スポーツクラブ、体育協会、レクリエーション協会及びその加盟団体が主催するプログラムや活動内容について、市民だよりやホームページに掲載し、わかりやすく積極的に紹介した。また、ポスター等掲示のための広報板の整備を行った。				地元密着型のマスメディアと同様に市広報職員も積極的に取材を行っている。情報提供先への誤情報の発信は絶対にあってはならない。	
5	ホームページによる情報提供	よかよかガイド、グループ・サークル名簿といった冊子のほか、市民講座の詳細などをホームページに掲載した。				掲示物の損傷を防ぐために扉付広報板への取替えを継続的に実施している。情報提供は、多くが継続的に実施していることなので、マンネリ化を招く恐れがあり、新たな切り口でPRすることが必要である。	
6	よかよかガイド等の生涯学習情報誌の作成及び更新	市民の生涯学習を支援するため、生涯学習情報誌(よかよかガイド、グループ・サークル名簿、指導者名簿)を作成及び更新した。				今後も継続して情報誌の作成、ホームページによる情報提供を実施し、学習機会の提供に努める。	生涯学習課
7	公共施設予約案内システム事業	公共施設予約案内システムにより、家庭や職場のパソコン、携帯電話及び市内公共施設に設置の利用者用端末により、施設の予約状況、料金等の情報を提供した。システムの老朽化に伴いシステムの機器更新をした。				今後も、利用者ニーズの把握に努め、より良いシステム運用に努める。	

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
8	社会福祉協議会補助事業	社会福祉協議会や障害者団体が実施する障害者スポーツの大会及び教室等の開催について、市民だよりやホームページに掲載し情報提供を図った。また、福祉健康フェスティバルやつむぎ場でブースを設け、市民に向けて障害者スポーツを紹介した。			継続	広く市民に障害者スポーツの情報提供を行うことにより、大会や教室等の活性化を図ります。また、ポッチャ等障害者スポーツを通じて障害者と市民が交流し、障害や障害のある人に対する理解促進につながるよう、継続して情報の発信に努めます。	福祉総務課
9	事業所向け出張型こころの健康講座	市内企業で働く労働者に対し、ストレスマネジメントやコミュニケーションについて学び、自らの心の状態と向き合ってもらおうと同時に、同僚や部下といった身近な人のこころの変化に気づくことができるようになるような出張講座を実施している。運動はこころの健康には大切な要素であり、ストレッチや職場でできる体操なども取り入れている。			新規	10事業所を目標に積極的に事業PRしていく。新しい事業であり、企業への浸透が浅く、積極的にPRする必要がある。受講者からは大変良い評価を得ており、今後も自信をもって進めていきたい。また、こころの健康には運動が効果的であることも情報発信していきたい。	健康推進課
10	市民だより、ホームページ、あいかりへの掲載	各種大会やイベントなどのスポーツに関する情報やホームタウンパートナーチームの試合情報などを掲載することにより、市民への周知を図った。			継続	市公式アプリ「あいかり」が新たに令和元年2月から稼働し始めたことから、各スポーツ情報を配信し、周知を図る。今後も継続して、各種大会やイベントなどのスポーツに関する情報やホームタウンパートナーチームの試合情報などを掲載することに努める。	スポーツ課
11	指定管理者自主事業(広報関係)	市と指定管理者が連携協働し、年に4回、「刈谷スポーツ&パーク通信」を発行(発行者は指定管理者)し、また、刈谷市ホームページにも掲載することで教室やイベントに関する情報などの市民への周知を行った。				今後も継続して、刈谷スポーツ&パーク通信に情報を掲載することに努める。	
12	指定管理運営ホームページへの予約案内システムリンク等の掲載	指定管理者が運営する刈谷市総合運動公園のホームページに様々なスポーツイベントや予約案内システムのリンクを掲載することにより、施設申込の利便性の向上等を図った。			継続	指定管理者と連携し、より分かりやすいホームページの作成に努める。	
13	情報提供	刈谷ホームページ等の地域報道機関に対し表敬訪問等の情報を積極的に提供し、マスメディアを活用した市民へのスポーツ情報等の周知を図った。				今後も継続して、報道機関への積極的な情報提供に努める。	

5 情報の提供の総計

総合型地域スポーツクラブ事業 (1 活動プログラムの充実、2 クラブ・団体の育成)

No.	事業名	30年度事業内容	H30	H29	評価	事業の現状、課題、令和2年度以降の計画等	担当課
1	スポーツ教室・サークル・イベント(朝日)	地域の人が誰でも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりに努め、スポーツを通じた地域コミュニティを形成し、青少年の健全育成、高齢者や障害のある人の社会参画の場として、スポーツ教室・サークルを開催した。開催種目は、テニス、卓球、ミニバスケットボール他で、野田・東刈谷地区文化祭で血液さらさら度チェックや芸能大会で参加し、野田地区敬老会にも参加した。野田地区福祉委員会にも所属し、「おげんきサロン」の開催に協力した。	573人	550人		これまで地区長は、会長、公民館長は、監査としてクラブの運営に協力していただき、助成金もいただいていたが、令和元年度から助成団体から外れ、地区役員は、理事のみの協力となった。地区回覧やクラブだよりに参加人数の少ない講座を紹介すが、問い合わせや新しく講座に参加する人がいない。講座を今後、続けていくべきか、毎年悩みながら開催しており、会員がこれ以上、減少する場合、随時、見直す必要が出てくるため、会員数を増やす工夫が必要。70歳以上が全会員数のうち、100名をこえ、高齢化が進んでいる。事故怪我のないように運営したい。	スポーツ課
2	スポーツ教室・サークル(依佐美)	地域の人が、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツができる環境作りに努めている。幼児から高齢者までが同じ教室でできる内容から能力に応じて、クラスを分ける教室もあり、さまざまな状況に応じられるように月曜日から土曜日までの間で、開催できる時間と場所を確保し、スポーツ教室、サークルへの参加を促している。開催種目(エアロビクス、ヨーガ、社交ダンス、ミニバスケットボール、幼児体カアップ、卓球、ボールフィットネス、太極拳、体カアップ、空手、ソフトバレー等22教室・サークル)。	298人	343人		地域に根を下ろした、スポーツクラブを目指しており、会員数が400名集まれば、自立運営ができる。小学生や幼稚園児を対象に2講座増やしていく予定。まだまだ人数にゆとりのある教室やサークルに活路を求めている。指導者が高齢化しており、来年度以降、新たに後任の指導者を確保していく必要がある教室、サークルが随時、出てくる。	
3	スポーツ教室・サークル(刈谷東)	22講座/クラブ(のべ438講座)、平均21人/1講座(のべ9,200人)の参加となり、年度計画に対し、講座の開催は、達成した。会員数が微増となり、クラブとしては、順調な一年であった。SNSを新規に取り入れ、年度後期から情報発信を開始したが、会員増との直接的な関係性は、確認できていない。一方で、変革に対して取り組むことは実施できていない。バレーボール、バドミントンや卓球などの交流会やダンスの地域行事へは、例年同様に参加することができた。学生や成人男性については、例年同様の入会状況であり、まだまだ参加する人が少なく、頭打ち状態にある。	364人	348人	継続	事業は、助成金に頼らない健全な運営ができています。会員数が近年、横ばい状態であり、情報の発信の仕方や、魅力ある講座の開設など、新たな取り組みが必要だと感じている。スポーツ推進委員が作るクラブづくりからの脱却(会員によるクラブ運営)は、出来ているが、クラブ単独での情報発信だけでは限界があるため、スポーツ推進委員と連携して活動することに取り組んでいきたい。会員の満足度を上げていくために、問題点や要望等をアンケートで抽出し、スクラップ&ビルドを実行しながら達成したい。永年的なクラブ運営を行うためにも、運営委員に若手の取り込みを行う。	
4	スポーツ教室・サークル(富士松)	会員、活動拠点、指導者を確保した。運営委員を16人に充実。5月19日に刈谷ハイウェイオアシスにて健康チェックイベントを実施し、参加者176人。11月2日には、柿狩りウォーキングを開催し、参加者60人。	301人	303人		会員数については、予定の300人を達成した。地域の協力も充実(刈谷ファイウェイオアシス、今井病院、愛知教育大学、ウォール薬局、トヨタ車体など)。会員の確保、教室サイクルの充実、クラブの知名度を高めたい。	
5	スポーツ教室・サークル(雁が音)	地地域の人が、だれでもいつでもどこでもいつまでも、スポーツに親しむことができる環境作りに努め、スポーツを通じた地域コミュニティの形成、青少年の育成、高齢者の社会参画の場として、スポーツ教室・サークルを開催した。開催種目(ヨガ・バスケットボール・卓球・チャリディング・バドミントン・硬式テニス・サッカー・囲碁将棋・書道・スケッチ)。	463人	441人		活動場所の確保が大きな課題であり、運営委員の負担の軽減を図ることも必要である。地域住民のニーズを把握し、新教室の開催を行うことにより会員の確保につなげていく。	
6	スポーツ教室・サークル(刈谷南)	非常に幅広い多世代が、楽しく、気持ちの良い汗を流し、広範囲な地域の皆さんの参加と協力を得て、個々にあった各種スポーツ教室およびサークル活動を開催した。また、文化活動として、絵手紙教室を年3回開催した。開催スポーツ教室(卓球、バスケットボール、バドミントン、ヒップホップダンス)、開催サークル(卓球、バスケットボール、バドミントン、ミニテニス、ソフトバレーボール)。	199人	223人		ヒップホップダンスの指導者が結婚して東京に行くため、来年度からの後任指導者を早急に探す必要がある。	

総合型地域スポーツクラブ事業の総計 2,198人 2,208人

・・・評価指標に関わる人数